

# 博全社の スタッフ 紹介

Vol.2

## エンバーミングと湯灌によるお別れ 「悲しみを和らげるために」心を込める

深い悲しみが少しでも癒されるように、博全社ではグリーンフサポートに力を入れていきます。グリーンフサポートとは死別の悲しみ(グリーンフ)の深い方を、様々な側面から支えることです。当社ではお別れの気持ちを整理していただけるよう、エンバーミングと湯灌を導入しています。心安らかなお別れが、ご遺族の新たなスタートの糧となるように…  
エンバーミング、湯灌でのお別れについて、スタッフの声とともにご紹介いたします。

一日のはじまりは、お預かりした故人様の手を合わせます。これは社員全員が行っています。



博全社では、1993年からエンバーミングという技術を取り入れました。現在はカナダで葬祭ディレクターの資格も持つ、経験豊かなデビッド・ハフマンとともに、女性エンバーマーも活躍。今回は看護師の経歴を持つ江野澤光さんに話を聞きました。

### 看護師から エンバーマーに転身

江野澤さんがエンバーマーになったきっかけとはなんでしょうか。  
「看護師の仕事を通じて亡くなった方からの感染の危険性を知りました。いろいろな勉強をするうちにエンバーミングという技術があり、感染を防ぎ、

長期間の保全が可能なのもわかりました。それで興味を持ち、技術を学ぶことにしたのです」

専門学校で2年間の勉強を経て、エンバーマーの道に進んだ江野澤さん。

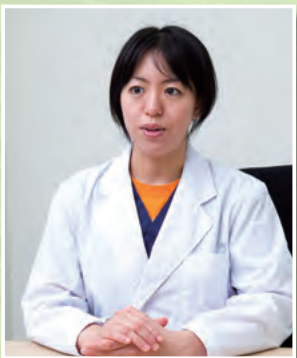
「長い闘病生活や不慮の事故でお元気がだったところのおもかげをなくしたお姿を前にすると、ご本人の尊厳を保ち、ご家族の心の痛みを少しでも和らげたいと仕事に力が入ります。衛生面に優れていることがこの仕事に入るきっかけでしたが、今はご家族の悲しみを和らげるためにという気持ちが強くなりました。衛生的に長くお身体を保てることで、故人様とふれあい、ゆっくりとお別れができる。それがご家族にとってのグリーンフサポートにつながっていく



葬祭ディレクターからご家族の要望、またお借りしたお写真を受け取り、エンバーミングの準備を整えます。



熟練のエンバーマー、デビッド・ハフマン。化粧をほどこす際も、その方しさを大切にします。



「毎日が真剣勝負。でも燃え尽きないようにリラックスすることも忘れません」と江野澤光さん。

### ご遺族からの手紙が 仕事の励みに

ご遺族と直接話をするのは葬祭ディレクターで、エンバーマーが接する機会は

ほとんどありませんが、お礼の手紙を受け取ることもあるそうです。

「交通事故で息子さんを亡くされたお父様からでした。息子さんのお友達がたくさん駆けつけてくれて、息子さん

## エンバーミング

エンバーミングとは故人様のお体を衛生的に長く保全する技術のことです。長い闘病生活や事故によるお身体の変化に対処し、元気だった頃のお姿に近づけます。感染症の心配がなく、また、時間を気にすることなくゆっくりお別れすることもできます。

アメリカやカナダでは90%以上がこの方法を行い、安全にゆとりを持ってお別れをしています。



エンバーミングスタッフ

### 湯灌はご遺族とともに寄り添う仕事

日本で昔から行われてきた湯灌によるお別れもご紹介いたします。スタッフが各式場などに出向き、ご遺族と一緒に故人様のお体を清めるケアです。湯灌スタッフに話を聞きました。

「例えば長い入院生活で大好きなお風呂に入れなかった故人様のお体を最後にご遺族が洗って差し上げることで、葬儀までの限られた時間のなかでも故人様と向き合い、お別れをすることができるようになります。

ご家族と一緒に、家族同様の気持ちでお世話させていただきたいと思っています」

湯灌の儀式は必ずしも悲しく沈んではありませんが、ときには和やかな雰囲気なかで、亡くなられた方の話をするのもグリーンフサポートにつながると考えています。

「納棺の際、私たちが綿で作った小さいなお花をお顔のまわりに手向けさせていたのですが、そんなとき「あら、おじいちゃんかわいくなっちゃって」



綿で作ったスタッフ手作りの花。納棺の際には花がまだ入らないので、せめてもの気持ちで手向けしています。

## ゆかん 湯灌

日本に古くからある葬儀の前の儀式で、水を張ったたらいに湯を入れ(逆さ水)ぬるま湯にし、亡くなった方を清めることを言います。生前の煩惱を洗い清めるという意味もあり、戦前までは家族の手で行われました。

博全社ではお体を拭き清める「古式湯灌」と専用の浴槽でお体を洗い流す「湯灌」の2種類があり、どちらもお化粧をしたり、髻や髪を整えたりします。



湯灌スタッフ